

第2章 調査結果のあらまし

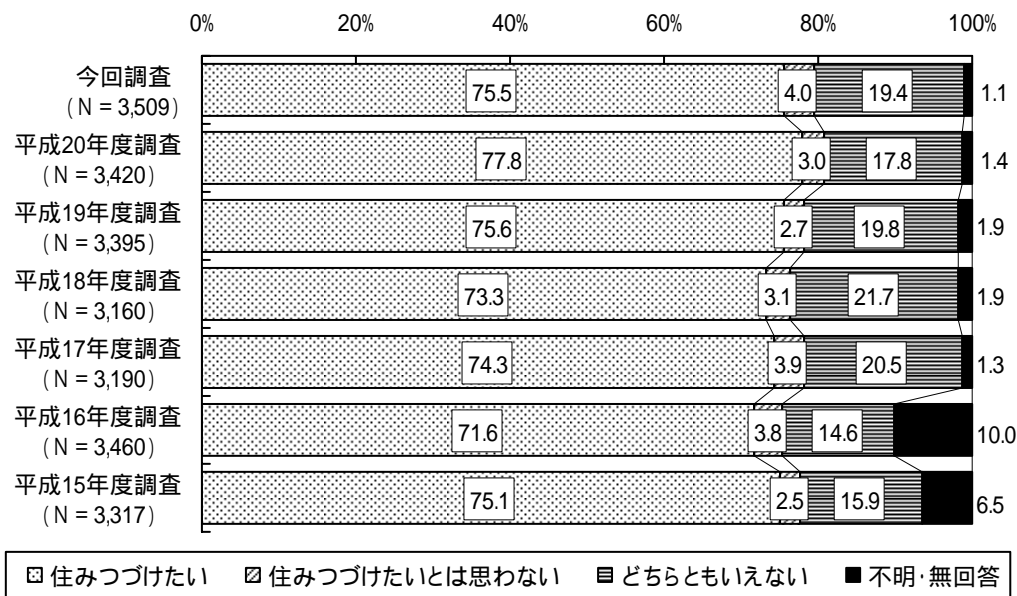
1. 県政全体に関する満足度

(1) 定住意向

問5 あなたはこれからも滋賀県に住みつづけたいと思いますか。(は1つだけ)

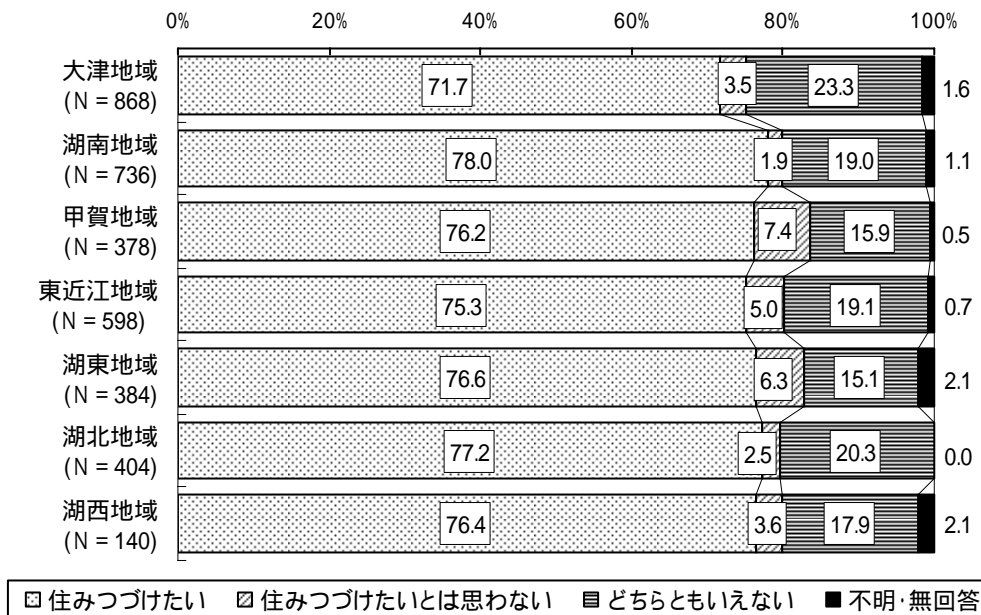
「住みつづけたい」は全体の75.5%

「住みつづけたい」が75.5%で最も高く、平成20年度調査と比較すると2.3ポイント低くなっている。「住みつづけたいとは思わない」は4.0%で平成20年度調査と比較すると1.0ポイント高くなっている。また「どちらともいえない」は19.4%で、平成20年度調査と比較すると1.6ポイント高くなっている。



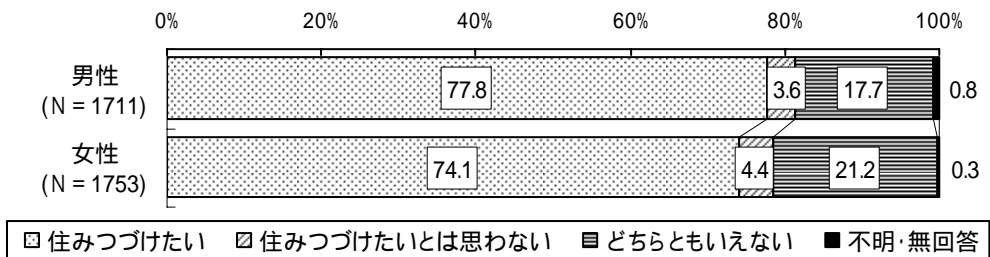
【地域別】

いずれの地域においても「住みつづけたい」が7割を超えており、地域によって大差はないが、湖南地域が78.0%で最も高く、大津地域が71.7%と最も低くなっている。また、「住みつづけたいとは思わない」は甲賀地域で7.4%と最も高くなっている。



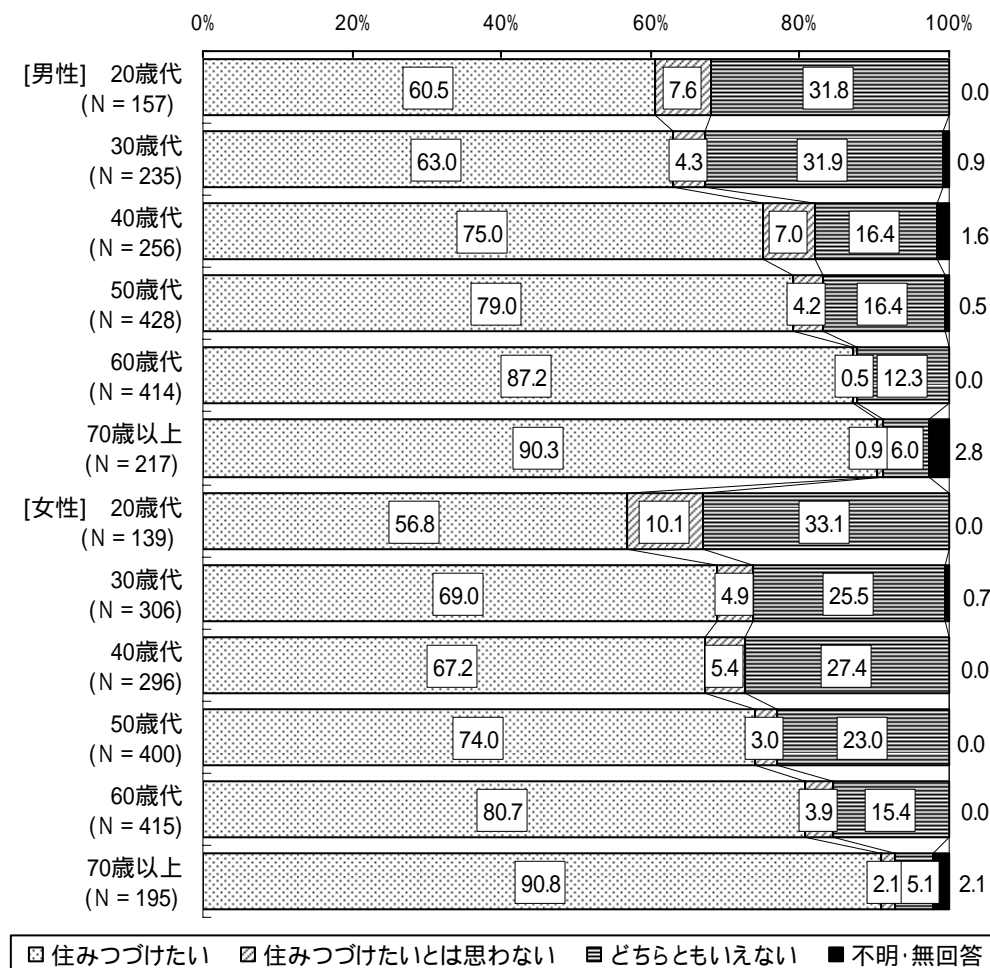
【性別】

男女とも「住み続けたい」が最も高く、男性 77.8%、女性 74.1%となっている。



【性・年代別】

「住み続けたい」は、男女ともに 70 歳以上が最も高く、男性 90.3%、女性 90.8%と 9 割以上を占める。また、20 歳代で男性 60.5%、女性 56.8%と最も低く、男性では年代が上がるにつれ、割合も高くなる傾向となっている。

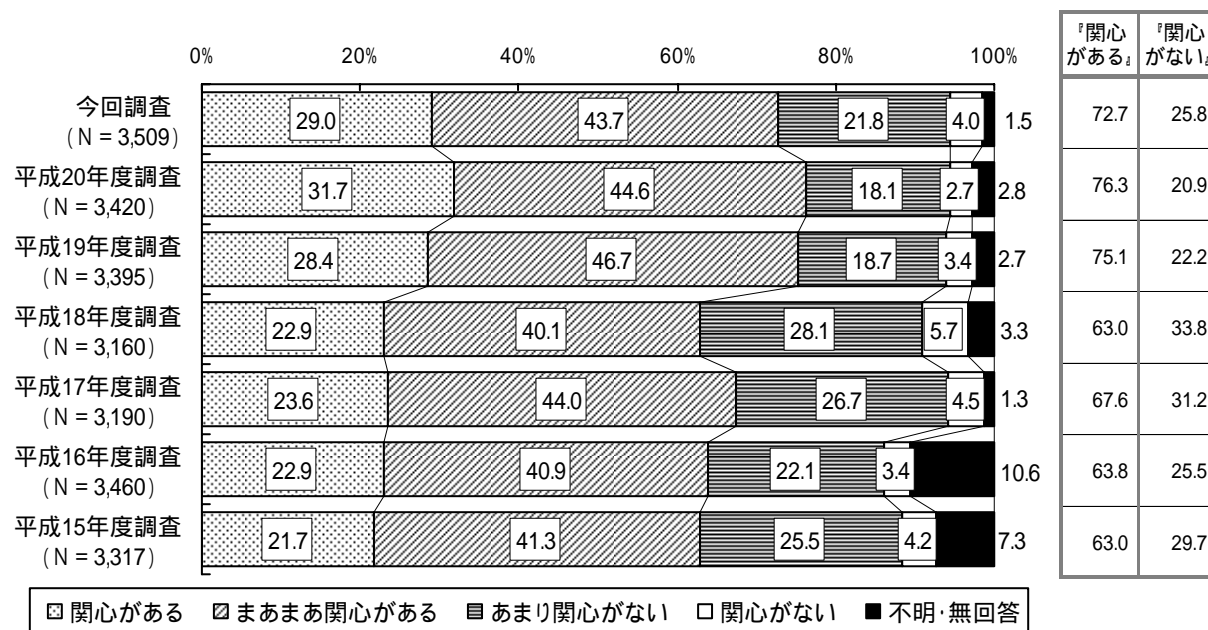


(2) 県政への関心度

問6 あなたは、県政に関心をお持ちですか。(は1つだけ)

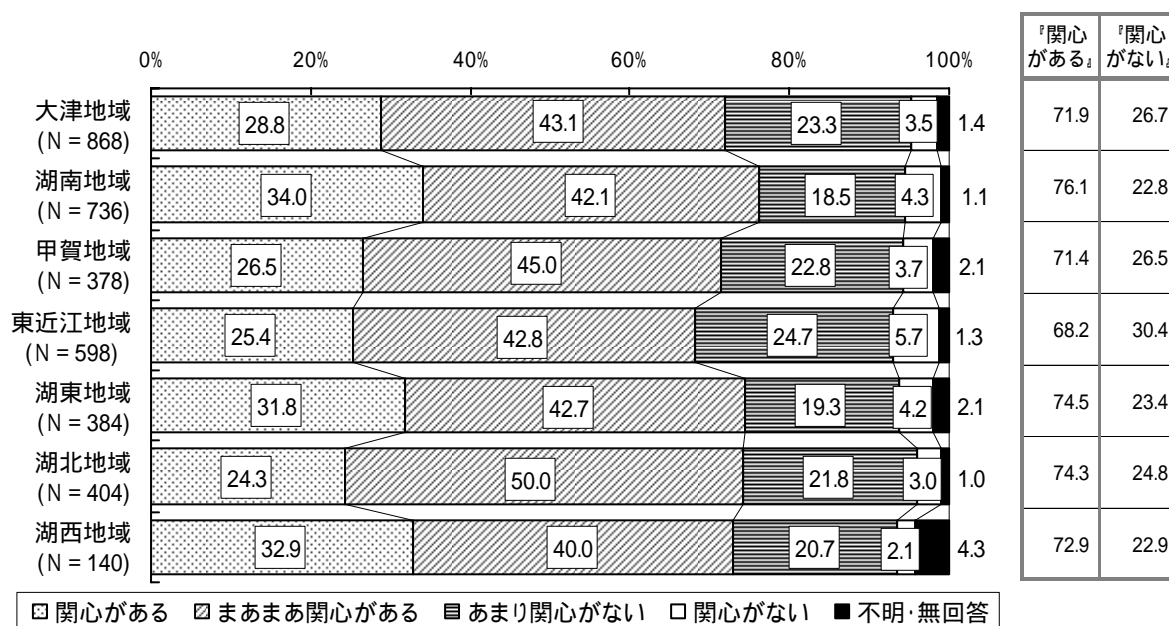
県政への関心度は72.7%

「関心がある」29.0%、「まあまあ関心がある」43.7%となり、『関心がある』(「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計)は72.7%で、平成20年度調査と比較すると3.6ポイント低くなっている。『関心がない』(「あまり関心がない」と「関心がない」の合計)は25.8%で、平成20年度調査と比較すると4.9ポイント高くなっている。



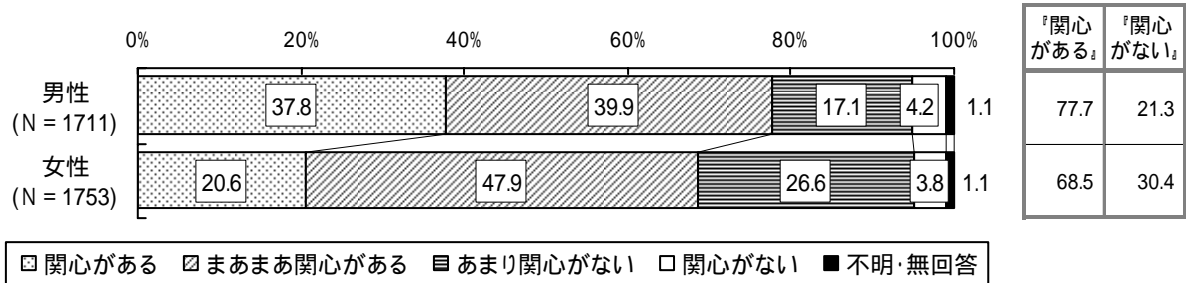
【地域別】

すべての地域で「まあまあ関心がある」が最も高くなっている。『関心がある』は湖南地域が76.1%と最も高く、『関心がない』は東近江地域が30.4%と最も高くなっている。



【性別】

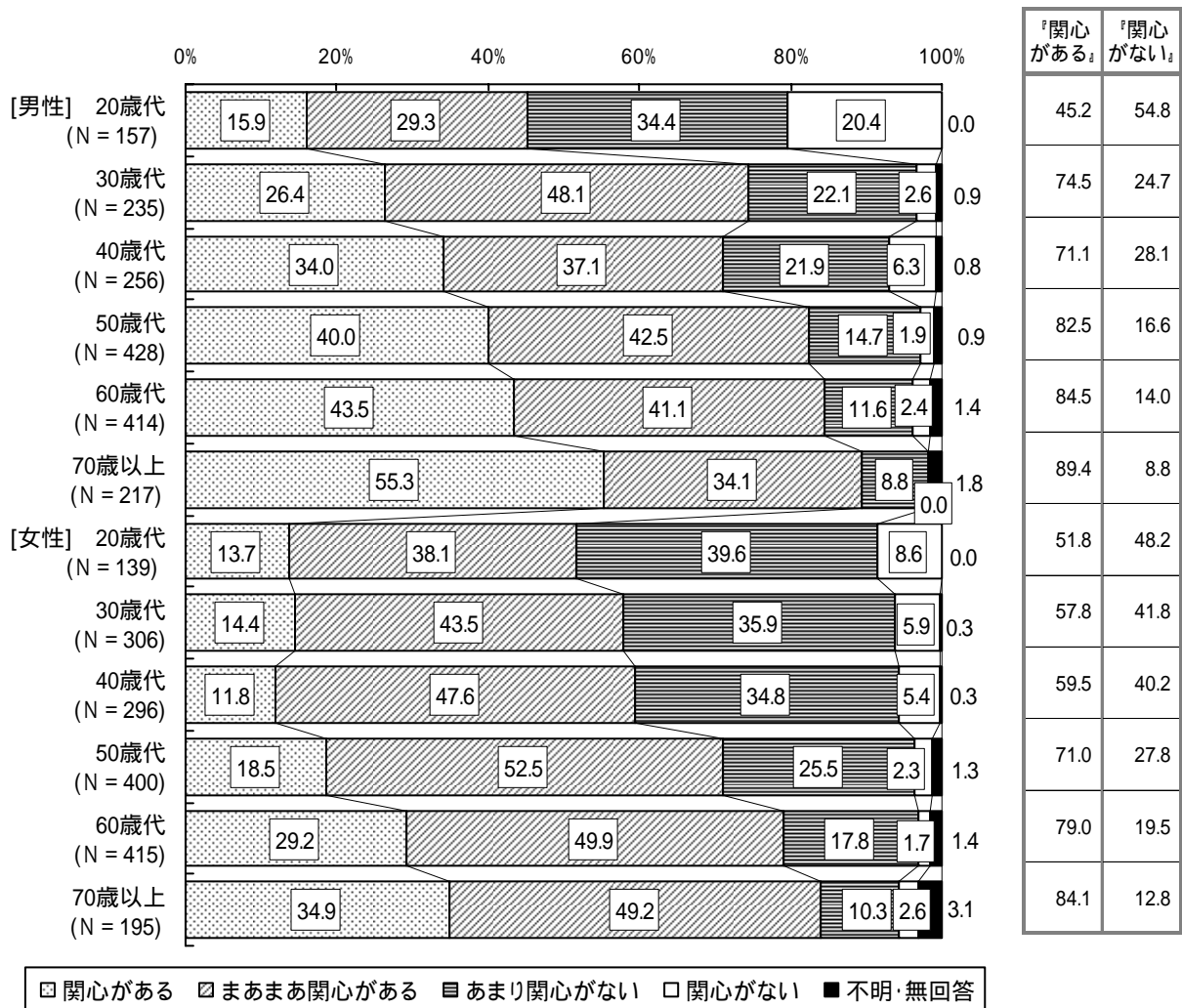
「関心がある」は男性 37.8%、女性 20.6%で、男性のほうが 17.2 ポイントと高くなっている。『関心がある』は男性が 77.7%、女性が 68.5%となっており、女性より男性のほうが 9.2 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

「関心がある」は男性では年代が上がるにつれて割合も高くなっており、70歳以上では 55.3%と最も高くなっている。また、すべての年代で男性が女性を上回っている。

『関心がある』は男女ともに 70歳以上が最も高く、男性 89.4%、女性 84.1%となっており、女性では年代が上がるにつれ『関心がある』も高くなる傾向となっている。



(3) 県の施策に対する満足度

問7 現在の県の施策に対してあなたはどの程度満足していますか。1～27のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

下表に示す27項目について、『満足度』を調査した。

1. 「満足」
2. 「どちらかといえば満足」
3. 「どちらともいえない」
4. 「どちらかといえば不満」
5. 「不満」
6. 「わからない」

を選択肢とし、本報告書では『満足度』(「満足」と「どちらかといえば満足」の合計)と『不満度』(「どちらかといえば不満」と「不満」の合計)に着目して、分析を行なった。

県の施策(27項目)

暮 ら し	1.健康づくりと介護予防の推進
	2.医療、介護等提供体制の整備
	3.食の安全と地産地消の推進
	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出
	5.ビジネス人材の育成支援
	6.安全・快適な居住環境の整備
	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり
	8.防災、防犯の取組み
	9.協働によるまちづくり、地域づくりの推進
	10.人権尊重の社会づくり
	11.男女共同参画社会の実現
	12.外国人と地域住民が共に暮らす地域づくりの推進
	13.子どもが健やかに育つ環境づくり
	14.人を育む学校、社会環境づくり
	15.地域における教育環境の整備
	16.個性ある地域文化の構築
産 業 ・ 経 済	17.競争力のある産業の育成
	18.地域を支える産業の育成
	19.環境と共生した農林水産業の振興
環 境	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全
	21.地球温暖化防止や資源循環等持続可能な社会づくり
	22.野生動植物の保護や生態系の修復
	23.農地森林の持つ多面的機能の維持・増進
県 土	24.交通基盤や都市施設の整備
	25.災害に備えた基盤づくり
	26.美しく魅力ある地域づくりの推進
	27.高度情報化社会の形成

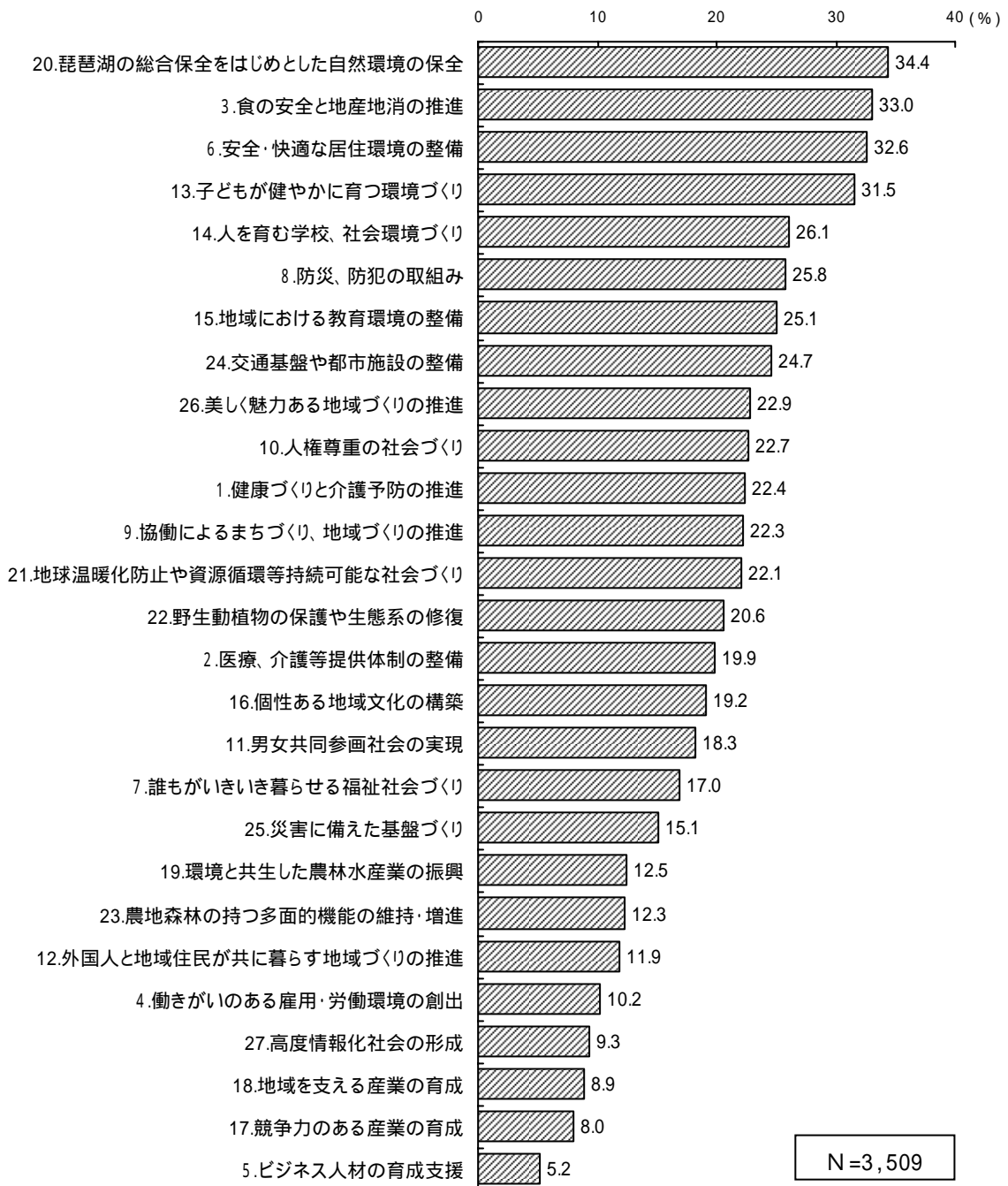
満足度の高い施策

満足度の最も高い施策は「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」で34.4%

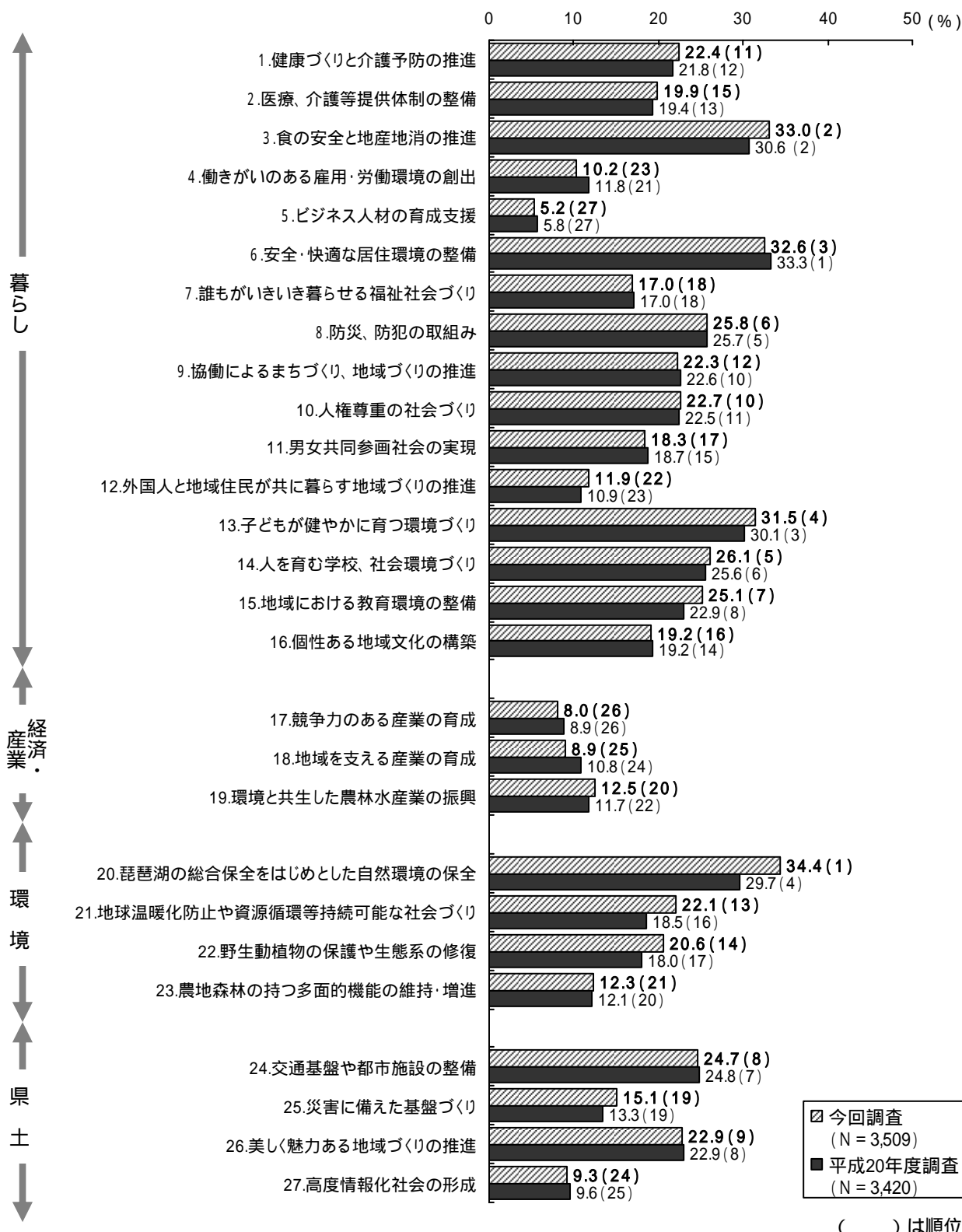
『満足度』の最も高い施策は、「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」で34.4%、次いで「食の安全と地産地消の推進」(33.0%)、「安全・快適な居住環境の整備」(32.6%)、「子どもが健やかに育つ環境づくり」(31.5%)と続いている。

満足度の上位10項目の内訳は、暮らしの分野から7項目、環境の分野から1項目、県土の分野から2項目となっている。

満足度



平成 20 年度調査と比較すると、「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」が 4.7 ポイント増え前年度の 4 位から 1 位となった。また、「地球温暖化防止や資源循環等持続可能な社会づくり」が 3.6 ポイント、「食の安全と地産地消の推進」が 2.4 ポイント増えている。



【地域別】

大津・湖南・東近江地域では「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」、甲賀・湖東・湖西地域では「食の安全と地産地消の推進」、湖北地域では「安全・快適な居住環境の整備」が1位となっている。これらの項目は、各地域で5位以内を占めており、このほか、「子どもが健やかに育つ環境づくり」が東近江・湖西地域では2位、湖北地域では3位に入っている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,509)	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 34.4	3.食の安全と地産地消の推進 33.0	6.安全・快適な居住環境の整備 32.6	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 31.5	14.人を育む学校、社会環境づくり 26.1
大津地域 (N=868)	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 38.7	6.安全・快適な居住環境の整備 32.9	3.食の安全と地産地消の推進 30.6	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 30.2	8.防災、防犯の取組み 27.0
湖南地域 (N=736)	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 35.6	3.食の安全と地産地消の推進 34.2	6.安全・快適な居住環境の整備 33.7	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 32.9	14.人を育む学校、社会環境づくり 26.6
甲賀地域 (N=378)	3.食の安全と地産地消の推進 34.9	6.安全・快適な居住環境の整備 33.3	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 33.3	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 32.8	15.地域における教育環境の整備 29.1
東近江地域 (N=598)	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 31.4	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 31.1	6.安全・快適な居住環境の整備 28.4	3.食の安全と地産地消の推進 28.1	15.地域における教育環境の整備 24.1
湖東地域 (N=384)	3.食の安全と地産地消の推進 38.5	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 35.9	6.安全・快適な居住環境の整備 32.8	8.防災、防犯の取組み 30.2	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 28.6
湖北地域 (N=404)	6.安全・快適な居住環境の整備 37.1	3.食の安全と地産地消の推進 36.1	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 34.7	14.人を育む学校、社会環境づくり 32.2	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 30.2
湖西地域 (N=140)	3.食の安全と地産地消の推進 32.9	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 29.3	6.安全・快適な居住環境の整備 26.4	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 25.7	1.健康づくりと介護予防の推進 14.人を育む学校、社会環境づくり 25.0

上記の太線枠の部分は、同率同位を示している。次頁以降も同じ。

【性別】

男性では「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」、女性では「食の安全と地産地消の推進」が1位となっている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,711)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	6. 安全・快適な居住環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	8. 防災、防犯の取り組み
	36.4	34.0	31.9	31.0	26.8
女性 (N=1,753)	3. 食の安全と地産地消の推進	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	6. 安全・快適な居住環境の整備	14. 人を育む学校、社会環境づくり
	34.5	32.7	32.3	31.5	26.8

【性・年代別】

男性の20歳代・70歳以上では「安全・快適な居住環境の整備」が、男性の30歳代では「食の安全と地産地消の推進」が、40～60歳代では「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=157)	6. 安全・快適な居住環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	24. 交通基盤や都市施設の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	8. 防災、防犯の取り組み
		41.4	35.7	33.1	31.8	28.0
	30歳代 (N=235)	3. 食の安全と地産地消の推進	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	6. 安全・快適な居住環境の整備	8. 防災、防犯の取り組み	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり 24. 交通基盤や都市施設の整備
		41.3	40.9	34.0	26.8	25.5
	40歳代 (N=256)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	6. 安全・快適な居住環境の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	22. 野生動植物の保護や生態系の修復	10. 人権尊重の社会づくり 24. 交通基盤や都市施設の整備
		38.7	30.1	29.3	25.8	23.8
	50歳代 (N=428)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	6. 安全・快適な居住環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	21. 地球温暖化防止や資源循環棟持続可能な社会づくり
		36.7	33.4	32.0	27.8	27.3
	60歳代 (N=414)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	6. 安全・快適な居住環境の整備	24. 交通基盤や都市施設の整備	14. 人を育む学校、社会環境づくり
		40.6	36.5	32.4	30.7	30.4
	70歳以上 (N=217)	6. 安全・快適な居住環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進 14. 人を育む学校、社会環境づくり	15. 地域における教育環境の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	
		38.2	35.5	34.6	34.1	

女性の20歳代では、「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」が、30・40歳代では、「食の安全と地産地消の推進」が、50歳以上では「子どもが健やかに育つ環境づくり」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
女性	20歳代 (N=139)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	26. 美しく魅力ある地域づくりの推進	6. 安全・快適な居住環境の整備	24. 交通基盤や都市施設の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	
		39.6	36.0	34.5	32.4	31.7	
	30歳代 (N=306)	3. 食の安全と地産地消の推進	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	6. 安全・快適な居住環境の整備	22. 野生動植物の保護や生態系の修復	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	
		38.9	38.6	31.4	28.8	25.8	
	40歳代 (N=296)	3. 食の安全と地産地消の推進	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	15. 地域における教育環境の整備	6. 安全・快適な居住環境の整備	
		33.8	32.8	31.8	30.7	28.7	
	50歳代 (N=400)	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	6. 安全・快適な居住環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	14. 人を育む学校、社会環境づくり	
		32.3	31.0	30.0	28.3	27.3	
	60歳代 (N=415)	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	3. 食の安全と地産地消の推進	6. 安全・快適な居住環境の整備	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	1. 健康づくりと介護予防の推進	
		37.1	35.9	31.3	31.1	28.4	
	70歳以上 (N=195)	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	14. 人を育む学校、社会環境づくり	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	15. 地域における教育環境の整備	3. 食の安全と地産地消の推進	
		43.1	42.6	37.4	37.4	36.4	

【定住意向別】

「住みつづけたい」と回答した人では「安全・快適な居住環境の整備」が、「住みつづけたいとは思わない」および「どちらともいえない」と回答した人では、「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
住みつづけたい (N=2,648)	6. 安全・快適な居住環境の整備	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	3. 食の安全と地産地消の推進	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	14. 人を育む学校、社会環境づくり	
	35.5	35.4	34.5	34.0	28.7	
住みつづけたいとは思わない (N=141)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	3. 食の安全と地産地消の推進	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	8. 防災、防犯の取り組み	3. 食の安全と地産地消の推進	
	29.1	26.2	25.5	24.8	22.7	
どちらともいえない (N=681)	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	3. 食の安全と地産地消の推進	6. 安全・快適な居住環境の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	22. 野生動植物の保護や生態系の修復	
	31.9	28.0	23.8	23.5	20.4	

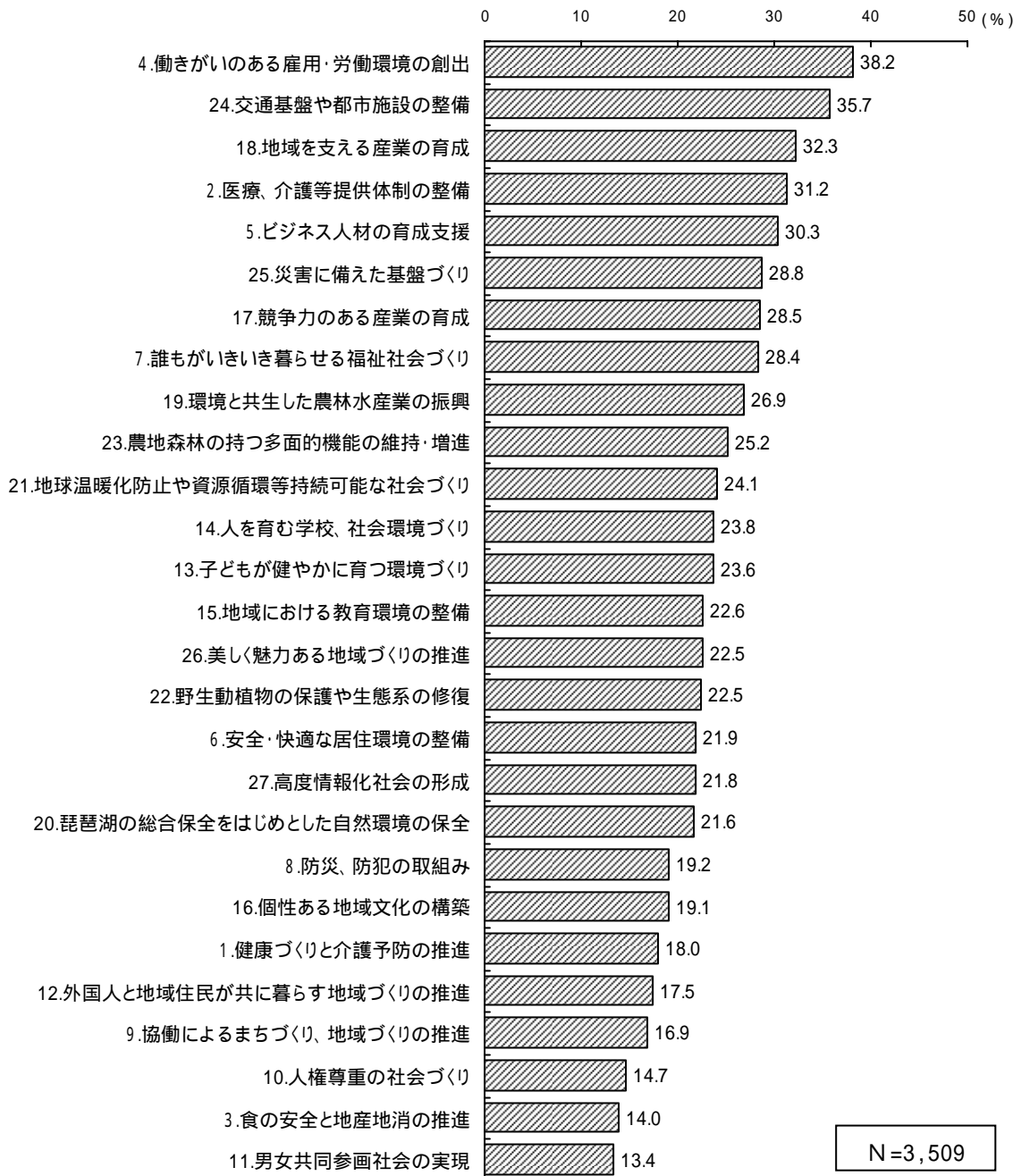
不満度の高い施策

不満度の最も高い施策は「働きがいのある雇用・労働環境の創出」で38.2%

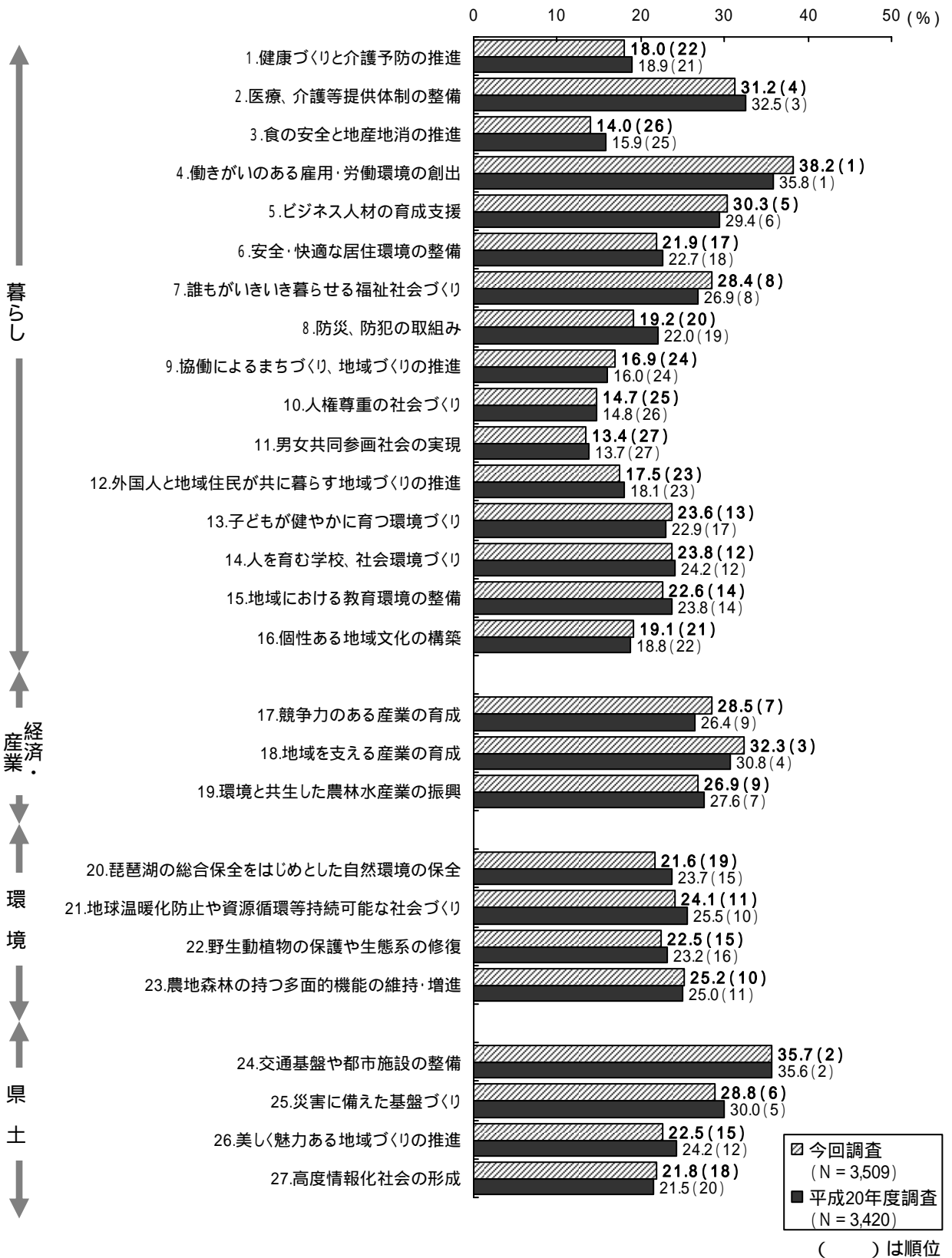
『不満度』の最も高い施策は「働きがいのある雇用・労働環境の創出」で38.2%、次いで「交通基盤や都市施設の整備」(35.7%)、「地域を支える産業の育成」(32.3%)の順となっている。

不満度の上位10項目の内訳は、暮らしの分野から4項目、経済・産業の分野から全3項目、環境の分野から1項目、県土の分野から2項目となっている。

不満度



平成 20 年度調査と比較すると、「働きがいのある雇用・労働環境の創出」は 2.4 ポイント高くなり、昨年度と同様の 1 位となっている。2 位の「交通基盤や都市施設の整備」は 0.1 ポイント高くなっている。「防災、防犯の取組み」が 2.8 ポイント低下している。



【地域別】

大津地域では「交通基盤や都市施設の整備」が、甲賀・東近江・湖北・湖西地域では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が、湖東地域では「医療、介護等提供体制の整備」が、湖南地域では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」と「交通基盤や都市施設の整備」が同率で1位となっている。「働きがいのある雇用・労働環境の創出」は各地域で2位以内を占めており、「交通基盤や都市施設の整備」「地域を支える産業の育成」が各地域で5位以内に入っている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,509)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 38.2	24.交通基盤や都市施設の整備 35.7	18.地域を支える産業の育成 32.3	2.医療、介護等提供体制の整備 31.2	5.ビジネス人材の育成支援 30.3
大津地域 (N=868)	24.交通基盤や都市施設の整備 35.7	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 35.0	25.災害に備えた基盤づくり 29.7	5.ビジネス人材の育成支援 28.1	18.地域を支える産業の育成 27.6
湖南地域 (N=736)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 24.交通基盤や都市施設の整備 34.8	5.ビジネス人材の育成支援 18.地域を支える産業の育成 29.1		2.医療、介護等提供体制の整備 28.3	
甲賀地域 (N=378)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 41.8	24.交通基盤や都市施設の整備 39.2	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 37.0	18.地域を支える産業の育成 34.9	2.医療、介護等提供体制の整備 33.3
東近江地域 (N=598)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 39.5	2.医療、介護等提供体制の整備 35.5	18.地域を支える産業の育成 33.4	24.交通基盤や都市施設の整備 32.4	17.競争力のある産業の育成 29.8
湖東地域 (N=384)	2.医療、介護等提供体制の整備 41.1	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 38.5	18.地域を支える産業の育成 37.0	24.交通基盤や都市施設の整備 33.9	25.災害に備えた基盤づくり 32.3
湖北地域 (N=404)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 38.1	24.交通基盤や都市施設の整備 36.6	5.ビジネス人材の育成支援 34.2	18.地域を支える産業の育成 33.7	17.競争力のある産業の育成 32.2
湖西地域 (N=140)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 60.7	18.地域を支える産業の育成 49.3	24.交通基盤や都市施設の整備 47.9	2.医療、介護等提供体制の整備 5.ビジネス人材の育成支援 43.6	

上記の太線枠の部分は、同率同位を示している。次頁以降も同様。

【性別】

男女とも「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が1位、「交通基盤や都市施設の整備」が2位となっている。男性では、3～5位を経済・産業分野の項目が占めている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,711)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	18.地域を支える産業の育成	17.競争力のある産業の育成	19.環境と共生した農林水産業の振興
	41.1	39.2	38.3	35.5	33.0
女性 (N=1,753)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	2.医療、介護等提供体制の整備	5.ビジネス人材の育成支援	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり
	35.5	32.2	30.1	28.0	27.9

【性・年代別】

男性の20・30・60歳代では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」、40歳代では「交通基盤や都市施設の整備」、50歳代では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」と「交通基盤や都市施設の整備」が同率で、70歳以上では「農地森林の持つ多面的機能の維持・増進」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=157)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	17.競争力のある産業の育成 18.地域を支える産業の育成	24.交通基盤や都市施設の整備	5.ビジネス人材の育成支援	
		58.6	46.5	43.9	42.7	
	30歳代 (N=235)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	18.地域を支える産業の育成	5.ビジネス人材の育成支援	17.競争力のある産業の育成
		44.3	42.1	39.1	37.0	36.6
	40歳代 (N=256)	24.交通基盤や都市施設の整備	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	18.地域を支える産業の育成	17.競争力のある産業の育成	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり
		45.7	44.9	41.8	40.6	40.2
	50歳代 (N=428)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 24.交通基盤や都市施設の整備	18.地域を支える産業の育成	19.環境と共生した農林水産業の振興	17.競争力のある産業の育成	
		42.3	41.6	41.4	39.5	
	60歳代 (N=414)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	18.地域を支える産業の育成	19.環境と共生した農林水産業の振興	24.交通基盤や都市施設の整備	17.競争力のある産業の育成
		36.0	35.3	35.0	32.1	30.4
	70歳以上 (N=217)	23.農地森林の持つ多面的機能の維持・増進	24.交通基盤や都市施設の整備	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	18.地域を支える産業の育成	26.美しく魅力ある地域づくりの推進
		34.6	32.3	29.0	26.3	24.9

女性の20～50歳代では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が、60歳代では「交通基盤や都市施設の整備」が、70歳代では「農地森林の持つ多面的機能の維持・増進」と「交通基盤や都市施設の整備」が同率で1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
女性	20歳代 (N=139)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	15.地域における教育環境の整備	5.ビジネス人材の育成支援 13.子どもが健やかに育つ環境づくり		14.人を育む学校、社会環境づくり
		41.0	39.6		37.4	35.3
	30歳代 (N=306)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	2.医療、介護等提供体制の整備	13.子どもが健やかに育つ環境づくり	14.人を育む学校、社会環境づくり	24.交通基盤や都市施設の整備
		38.9	36.3	32.4	31.7	31.4
	40歳代 (N=296)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	5.ビジネス人材の育成支援	2.医療、介護等提供体制の整備	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり
		42.6	36.5	33.8	33.1	32.4
	50歳代 (N=400)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	2.医療、介護等提供体制の整備	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	5.ビジネス人材の育成支援
		40.0	36.5	34.3	32.5	31.8
	60歳代 (N=415)	24.交通基盤や都市施設の整備	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	18.地域を支える産業の育成	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	25.災害に備えた基盤づくり
		33.5	31.3	29.4	28.9	28.4
	70歳以上 (N=195)	23.農地森林の持つ多面的機能の維持・増進 24.交通基盤や都市施設の整備		21.地球温暖化防止や資源循環棟持続可能な社会づくり	25.災害に備えた基盤づくり	19.環境と共生した農林水産業の振興
			20.5	19.0	18.5	17.9

【定住意向別】

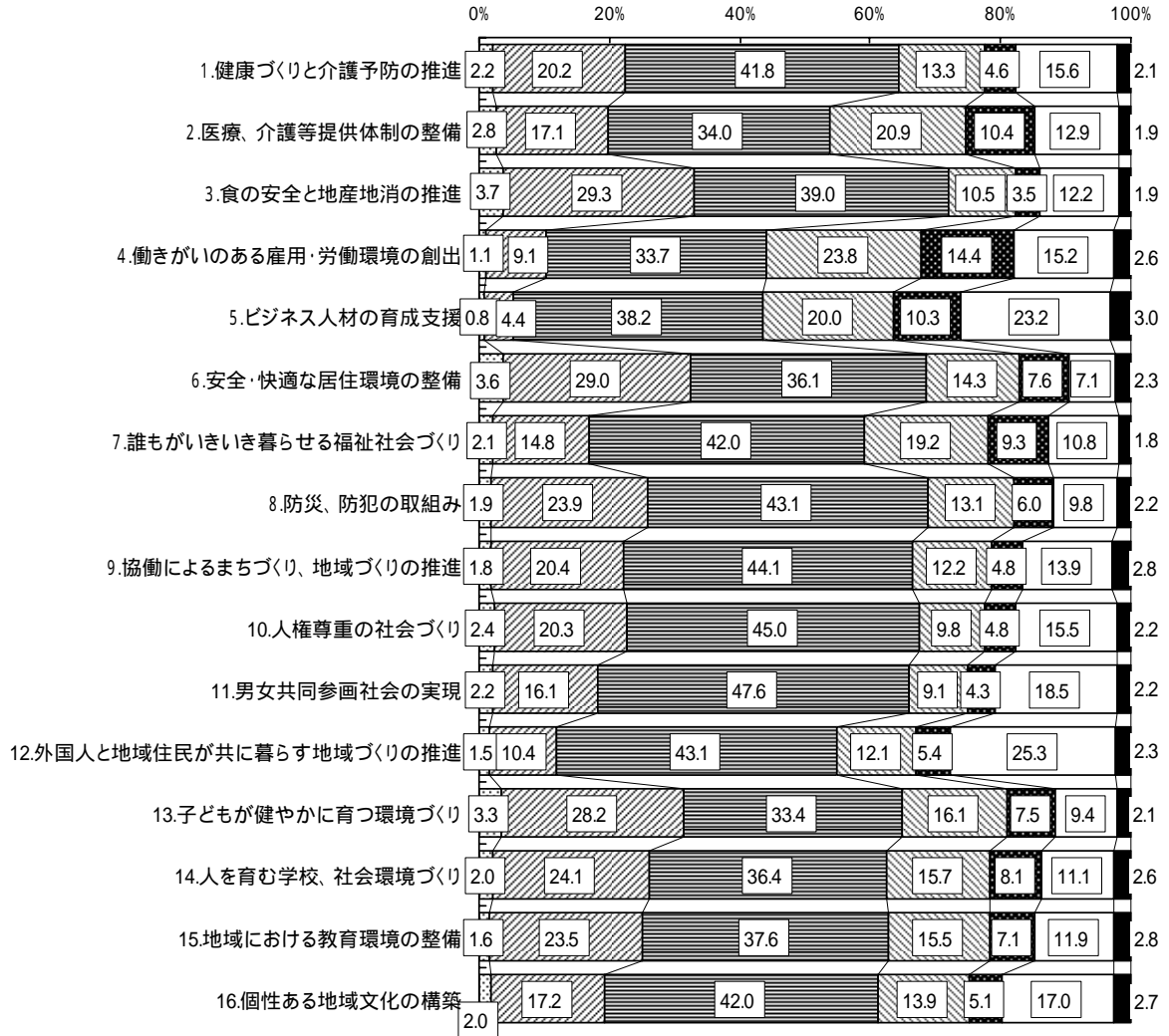
「住みつづけたい」、「どちらともいえない」と回答した人では、ともに「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が、「住みつづけたいとは思わない」と回答した人では、「交通基盤や都市施設の整備」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
住みつづけたい (N=2,648)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	18.地域を支える産業の育成	2.医療、介護等提供体制の整備	25.災害に備えた基盤づくり	
	35.2	33.1	31.6	29.1	27.8	
住みつづけたいとは思わない (N=141)	24.交通基盤や都市施設の整備	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	5.ビジネス人材の育成支援	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	2.医療、介護等提供体制の整備 14.人を育む学校、社会環境づくり	
	43.3	42.6	38.3	37.6	34.8	
どちらともいえない (N=681)	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出	24.交通基盤や都市施設の整備	5.ビジネス人材の育成支援	2.医療、介護等提供体制の整備	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	
	49.8	44.3	40.2	39.8	36.7	

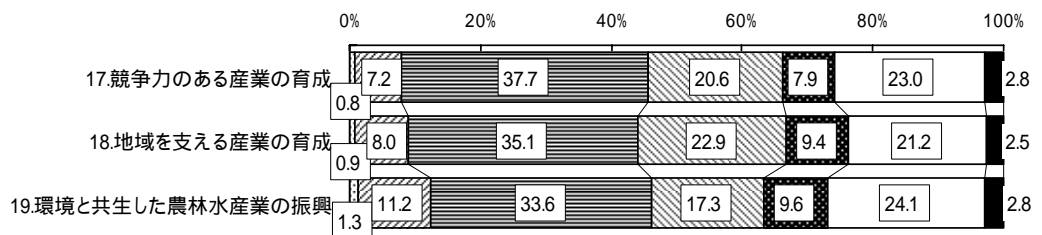
県政に対する『満足度』、『不満足度』（全体の結果）

暮らし



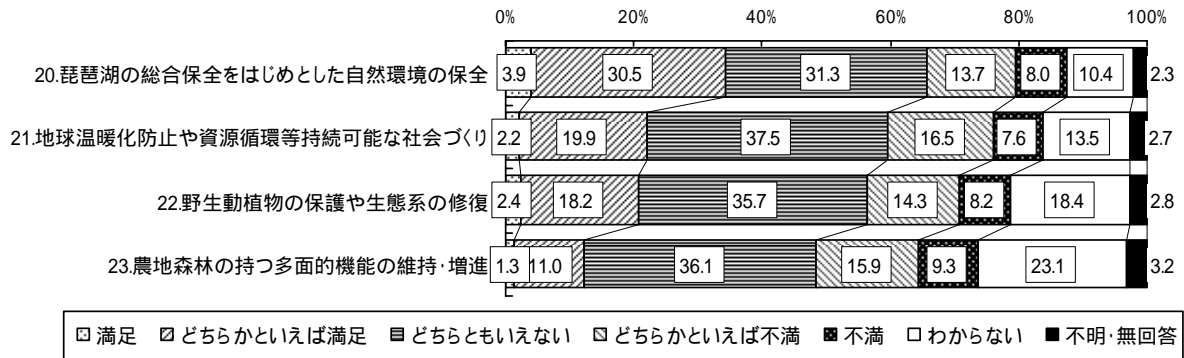
□ 満足 □ どちらかといえば満足 □ どちらともいえない □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ わからない ■ 不明・無回答

経済・産業

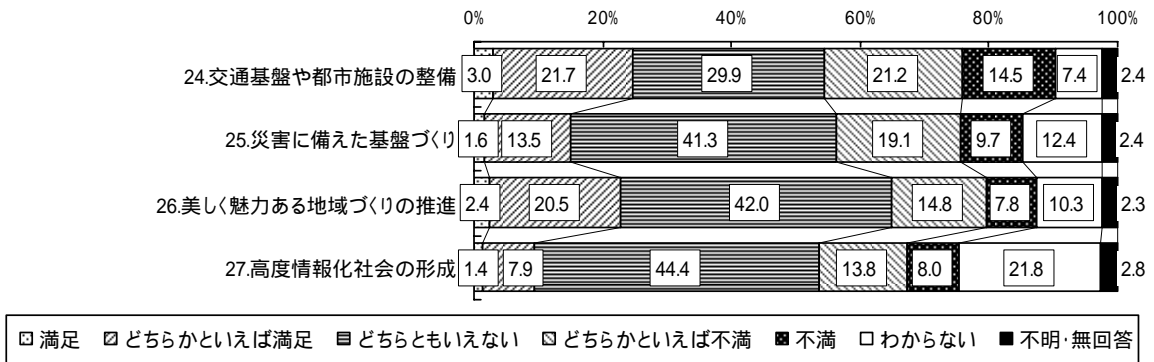


□ 満足 □ どちらかといえば満足 □ どちらともいえない □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ わからない ■ 不明・無回答

環境



県土



(4)力を入れてほしい施策

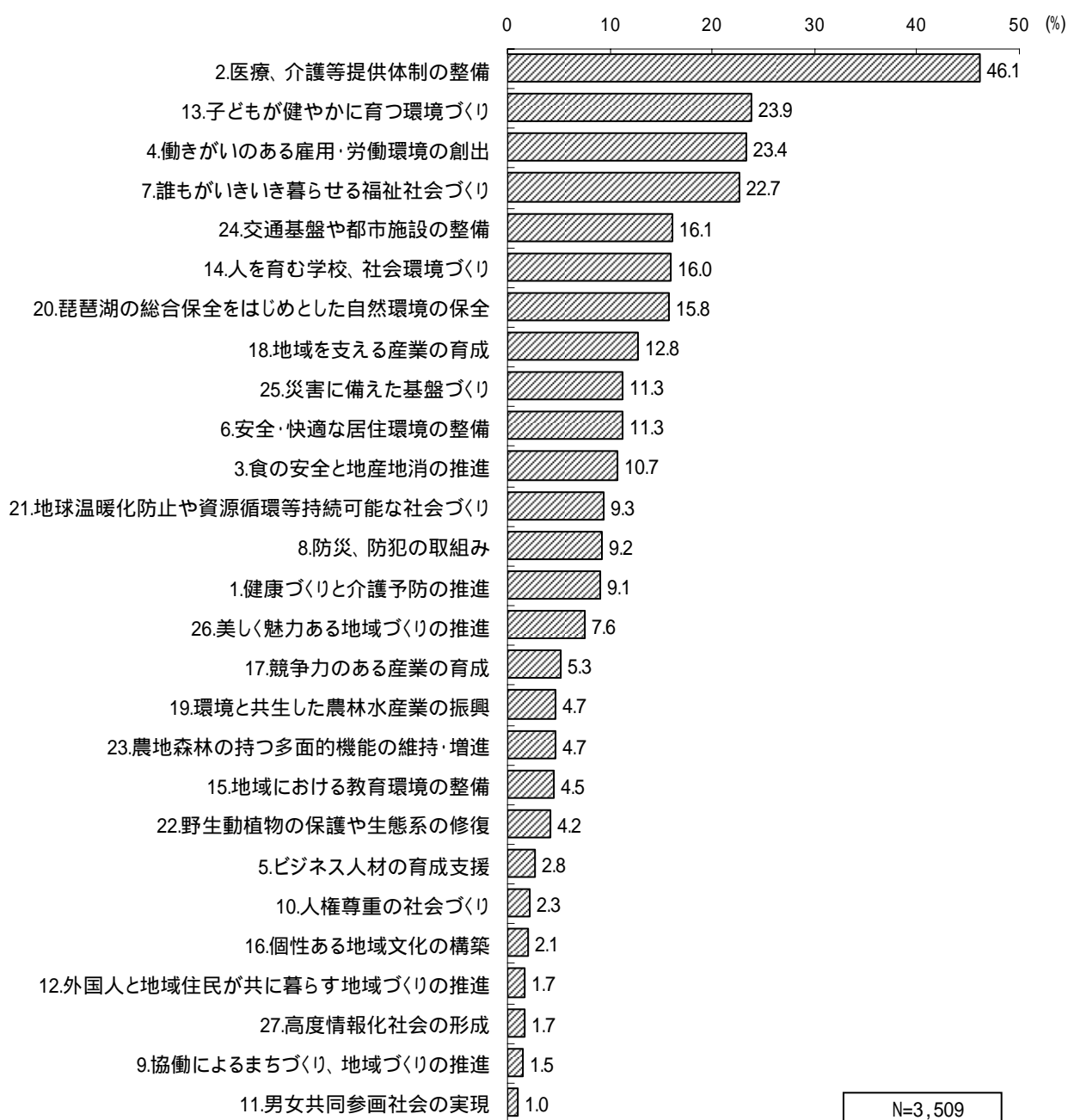
問8 あなたが、いま県の施策で力を入れてほしいと思うことはどんなことですか。前問の内容を参考に、1～27の中から3つまで選んでください。(は3つまで)

全体の順位

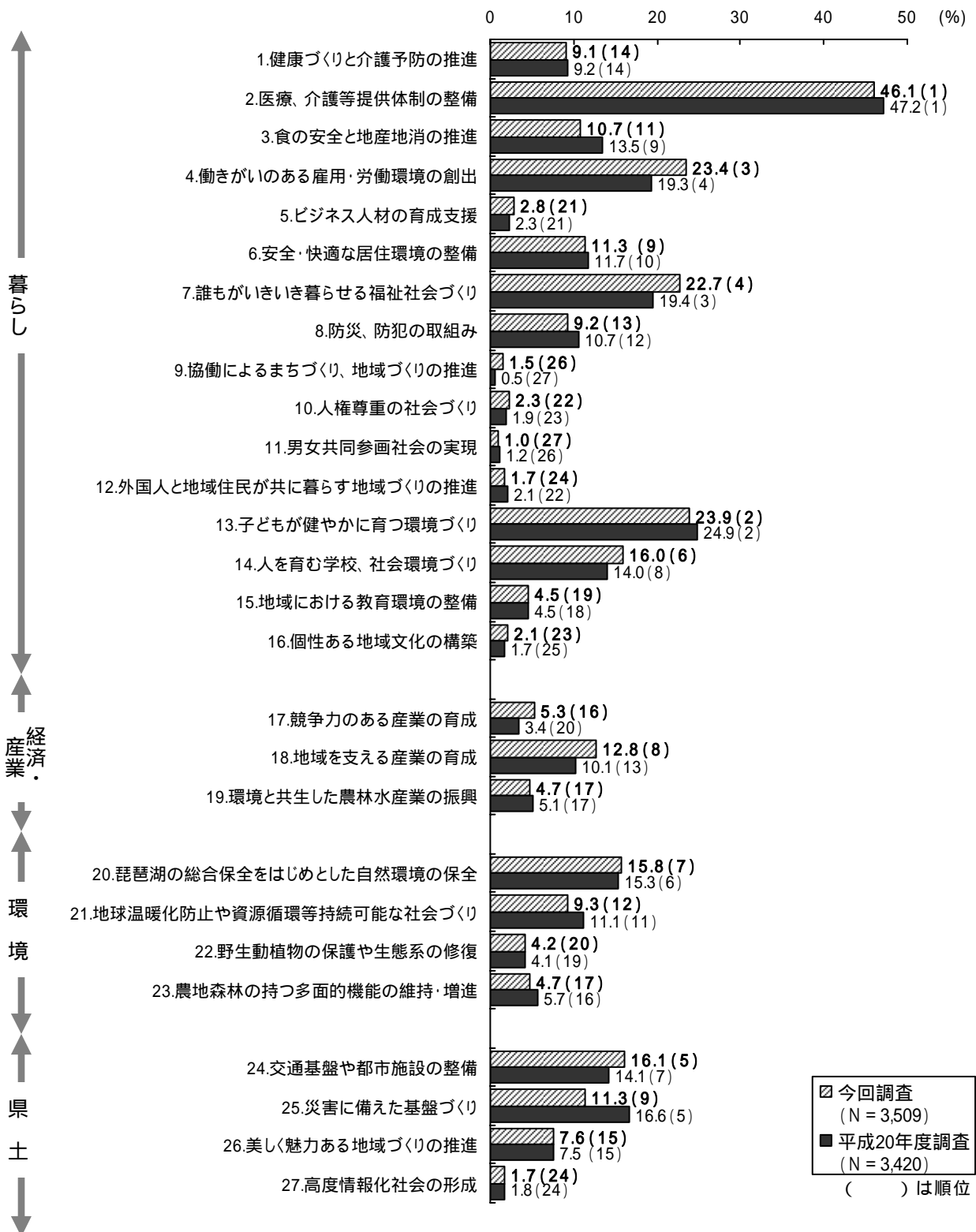
最も力を入れてほしい施策は「医療、介護等提供体制の整備」で46.1%

全体では、「医療、介護等提供体制の整備」が46.1%で最も高くなっている。次いで「子どもが健やかに育つ環境づくり」(23.9%)、「働きがいのある雇用・労働環境の創出」(23.4%)、「誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり」(22.7%)の順となっている。

要望の多い上位10項目の内訳は、暮らしの分野から6項目、経済・産業の分野から1項目、環境の分野から1項目、県土の分野から2項目となっている。

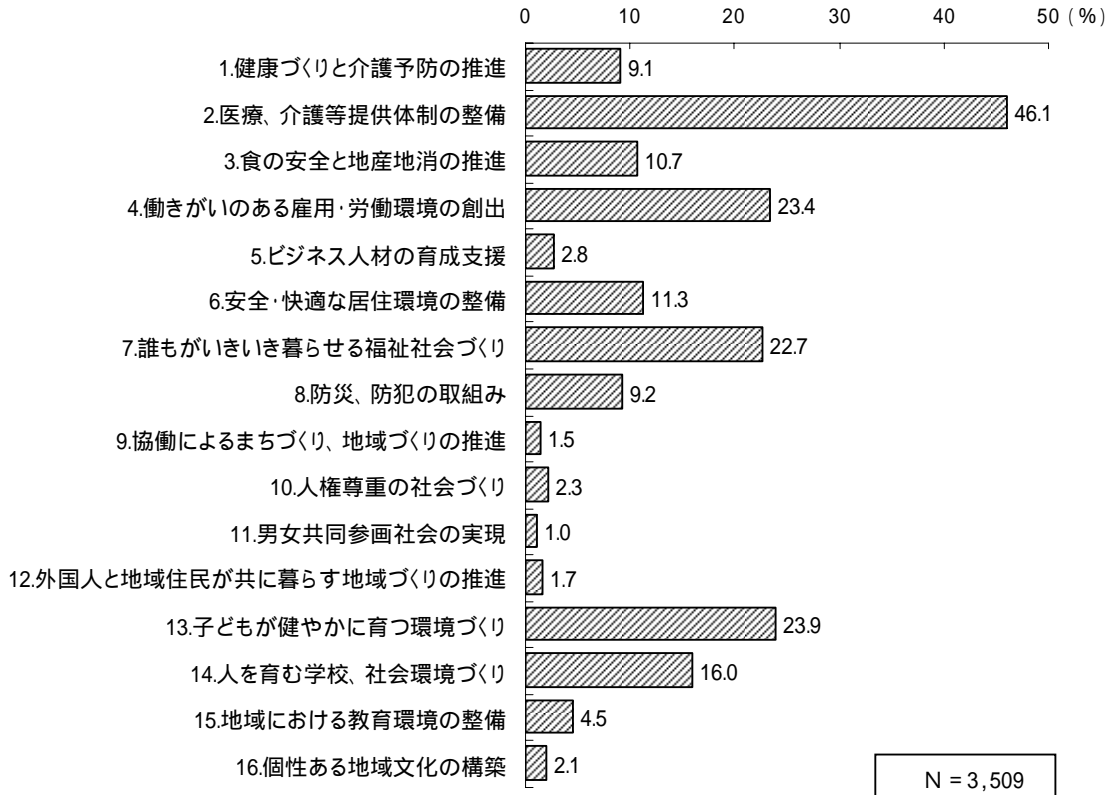


平成20年度調査と比較すると、1位の「医療、介護等提供体制の整備」、2位の「子どもが健やかに育つ環境づくり」は前年と変わらず、前年4位の「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が4.1ポイント増え、3位となっている。「地域を支える産業の育成」が13位から8位に、「競争力のある産業の育成」が20位から16位に上昇している。また、「災害に備えた基盤づくり」が5.3ポイント低くなっている。



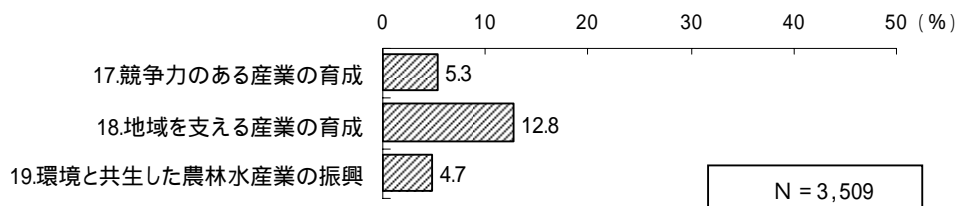
暮らし分野における要望

暮らし分野では、「医療、介護等提供体制の整備」が最も高く46.1%となっている。次いで「子どもが健やかに育つ環境づくり」(23.9%)、「働きがいのある雇用・労働環境の創出」(23.4%)、「誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり」(22.7%)となっている。



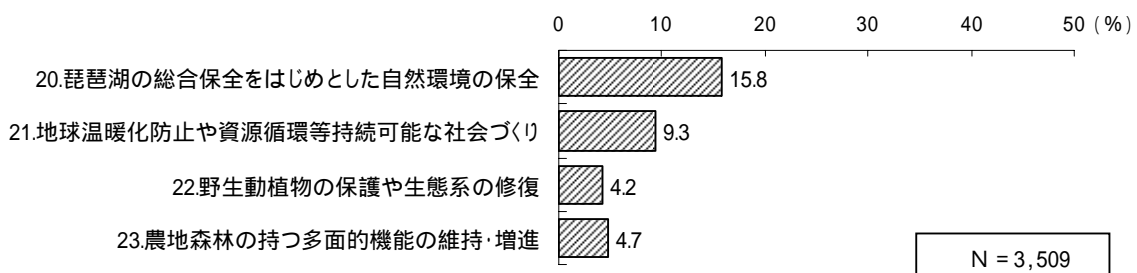
経済・産業分野における要望

経済・産業分野では、「地域を支える産業の育成」が12.8%と最も高い。



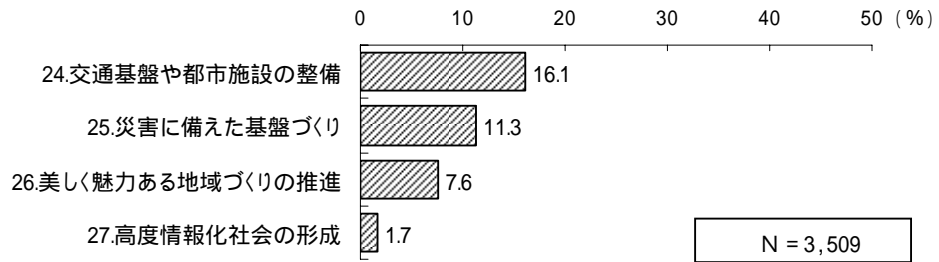
環境分野における要望

環境分野では、「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」(15.8%)が最も高く、次いで「地球温暖化防止や資源循環等持続可能な社会づくり」(9.3%)となっている。



県土分野における要望

県土分野では、「交通基盤や都市施設の整備」(16.1%)が最も高く、次いで「災害に備えた基盤づくり」(11.3%)となっている。



【地域別】

すべての地域で「医療、介護等提供体制の整備」が最も高く、4割を超えている。次いで、大津・湖南地域では「子どもが健やかに育つ環境づくり」、甲賀・東近江・湖東地域では「誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり」、湖北・湖西地域では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」となっている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (N=3,509)	2.医療、介護等提供体制の整備 46.1	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 23.9	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 23.4	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 22.7	24.交通基盤や都市施設の整備 16.1
大津地域 (N=868)	2.医療、介護等提供体制の整備 49.3	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 24.4	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 24.0	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 21.2	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 20.3
湖南地域 (N=736)	2.医療、介護等提供体制の整備 43.8	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 26.1	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 24.5	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 20.7	20.琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全 18.5
甲賀地域 (N=378)	2.医療、介護等提供体制の整備 44.4	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 29.1	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 25.9	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 24.9	24.交通基盤や都市施設の整備 17.5
東近江地域 (N=598)	2.医療、介護等提供体制の整備 42.1	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 24.7	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 24.4	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 21.1	14.人を育む学校、社会環境づくり 17.7
湖東地域 (N=384)	2.医療、介護等提供体制の整備 53.1	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 26.6	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 21.9	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 18.2	14.人を育む学校、社会環境づくり 16.1
湖北地域 (N=404)	2.医療、介護等提供体制の整備 43.1	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 28.7	14.人を育む学校、社会環境づくり 21.3	7.誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり 18.地域を支える産業の育成 20.3	
湖西地域 (N=140)	2.医療、介護等提供体制の整備 49.3	4.働きがいのある雇用・労働環境の創出 36.4	24.交通基盤や都市施設の整備 25.7	18.地域を支える産業の育成 21.4	13.子どもが健やかに育つ環境づくり 19.3

【性別】

男女ともに「医療、介護等提供体制の整備」が最も高い。次いで、男性は「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が、女性は「誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり」が続いている。

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,711)	2. 医療、介護等提供体制の整備	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	24. 交通基盤や都市施設の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり
	42.5	22.8	21.7	19.8	18.5
女性 (N=1,753)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	14. 人を育む学校、社会環境づくり
	49.5	26.6	26.1	23.9	19.5

【性・年代別】

男性の20歳代では「働きがいのある雇用・労働環境の創出」が、それ以外の年代では「医療、介護等提供体制の整備」が1位となっている。「医療、介護等提供体制の整備」は、すべての年代で2位以内に入っている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳代 (N=157)	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	2. 医療、介護等提供体制の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	24. 交通基盤や都市施設の整備	18. 地域を支える産業の育成
		36.9	29.3	24.2	19.1	18.5
	30歳代 (N=235)	2. 医療、介護等提供体制の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	24. 交通基盤や都市施設の整備	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全
		38.7	37.9	30.2	26.4	16.6
	40歳代 (N=256)	2. 医療、介護等提供体制の整備	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	14. 人を育む学校、社会環境づくり	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	24. 交通基盤や都市施設の整備
		39.5	28.5	26.2	25.8	19.1
	50歳代 (N=428)	2. 医療、介護等提供体制の整備	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	24. 交通基盤や都市施設の整備	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	18. 地域を支える産業の育成
		44.6	23.6	19.6	19.4	18.7
	60歳代 (N=414)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり
		49.8	23.9	21.0	19.1	17.4
	70歳以上 (N=217)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	25. 災害に備えた基盤づくり	1. 健康づくりと介護予防の推進 24. 交通基盤や都市施設の整備
		41.9	33.2	17.1	16.1	15.2

女性の20歳代では「子どもが健やかに育つ環境づくり」が、それ以外の年代では「医療、介護等提供体制の整備」が1位となっている。

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
女性	20歳代 (N=139)	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	2. 医療、介護等提供体制の整備 4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出		6. 安全・快適な居住環境の整備	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	
		43.2		41.7	22.3	17.3	
	30歳代 (N=306)	2. 医療、介護等提供体制の整備	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	14. 人を育む学校、社会環境づくり	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	24. 交通基盤や都市施設の整備	
		47.4	39.3	31.7	26.1	19.3	
	40歳代 (N=296)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	14. 人を育む学校、社会環境づくり	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	
		53.7	33.4	31.1	23.6	18.6	
	50歳代 (N=400)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	4. 働きがいのある雇用・労働環境の創出	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	20. 琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全	
		52.0	30.5	26.5	21.5	16.5	
	60歳代 (N=415)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	1. 健康づくりと介護予防の推進	14. 人を育む学校、社会環境づくり	
		48.2	37.3	21.9	14.5	14.2	
	70歳以上 (N=195)	2. 医療、介護等提供体制の整備	7. 誰もがいきいき暮らせる福祉社会づくり	3. 食の安全と地産地消の推進	21. 地球温暖化防止や資源循環棟持続可能な社会づくり	1. 健康づくりと介護予防の推進 13. 子どもが健やかに育つ環境づくり	
		49.7	40.5	16.9	14.9	13.8	

(5) 施策についての具体的項目

問9 問8で選ばれた県の施策について、具体的にどのようなことを望まれますか。問8で選ばれた3項目についてのみ、右の表の「具体的項目」の中からそれぞれ1つ選んでください。

全体の順位

最も力を入れてほしい県の具体的施策は、「総合的な就業支援の実施」で12.8%

具体的項目の全117項目を高い順に並べてみると、「総合的な就業支援の実施」が最も高く12.8%となっている。次いで、「高齢者が豊かに生活できる環境づくり」(11.9%)、「医師等確保の総合的な対策の推進」(11.4%)、「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」(10.6%)、「子どもを安心して育てることのできる環境づくり」(10.5%)となっている。

順位	項目	百分比
1	総合的な就業支援の実施	12.8
2	高齢者が豊かに生活できる環境づくり	11.9
3	医師等確保の総合的な対策の推進	11.4
4	国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進	10.6
5	子どもを安心して育てることのできる環境づくり	10.5
6	災害に強い地域基盤の整備	8.5
7	仕事と家庭の両立が可能な職場環境づくりの促進	8.2
8	質の高い医療サービスの提供体制の整備	8.0
9	介護などのサービス基盤の整備	7.5
10	琵琶湖の総合的な保全と再生	6.6
11	子どもが健やかに育つ環境づくり	6.3
12	子育てをみんなで応援する社会づくり	5.9
13	地域資源を活かした地域産業の振興	5.7
14	快適な居住環境の整備	5.1
15	地球温暖化防止対策の推進	4.8
15	移動手段が選択できる道路環境の整備	4.8
17	利用者本位の介護等サービス提供の推進	4.7
18	確かな学力を育む学校教育の推進	4.4
19	交通基盤の整備	4.2
20	防犯対策の推進	4.0
21	地産地消の取組推進	3.9
22	商業の振興	3.4
23	より安全な農畜水産物の生産の推進	3.3
23	国道・県道の整備	3.3
25	個性を活かした活力ある地域づくりの推進	3.2
26	健康づくりへの支援	3.1
26	県民主導の介護予防の推進	3.1
28	低所得世帯等の自立支援	3.0
29	青少年の健全育成	2.9
29	食品や水道水の安全確保と生活衛生の向上	2.9
29	安全快適に利用できる道路整備	2.9
32	楽しく学校生活を送れる環境づくり	2.8
32	地域共生の仕組みづくり	2.8
32	障害のある人が地域で暮らし、働き、活動できる環境づくり	2.8
35	美しい景観のまちづくり	2.7
36	企業誘致の推進	2.6
37	農業の多面的機能の発揮	2.5
37	災害への備えある地域づくり	2.5
37	環境重視と県民協働による川づくり・森林づくりの推進	2.5
40	省資源・資源循環の推進	2.3
41	歴史や自然を活かした観光産業の展開	2.2
42	総合的・計画的な土地利用の推進	2.0
42	人権尊重の社会づくり	2.0
44	森林の多面的機能の発揮	1.9
45	健全な環境の確保	1.8
46	農業の担い手の育成	1.7
47	高等教育機関の充実と活用	1.6
47	子どもの地域における体験の場づくり	1.6
47	安全な交通環境の整備	1.6
50	活力と魅力に満ちた農業、林業、水産業の振興	1.5
50	琵琶湖の生態系の修復	1.5
52	職業能力開発の推進	1.3
52	琵琶湖のレジャー利用の適正化	1.3
52	地域の力を活かした学校教育の推進	1.3
52	外国人と地域住民が共に暮らす地域づくりの推進	1.3
52	安全確保に向けた施設整備等の推進	1.3
57	新事業創出に向けた環境づくりの推進	1.1
57	情報通信基盤の確立	1.1

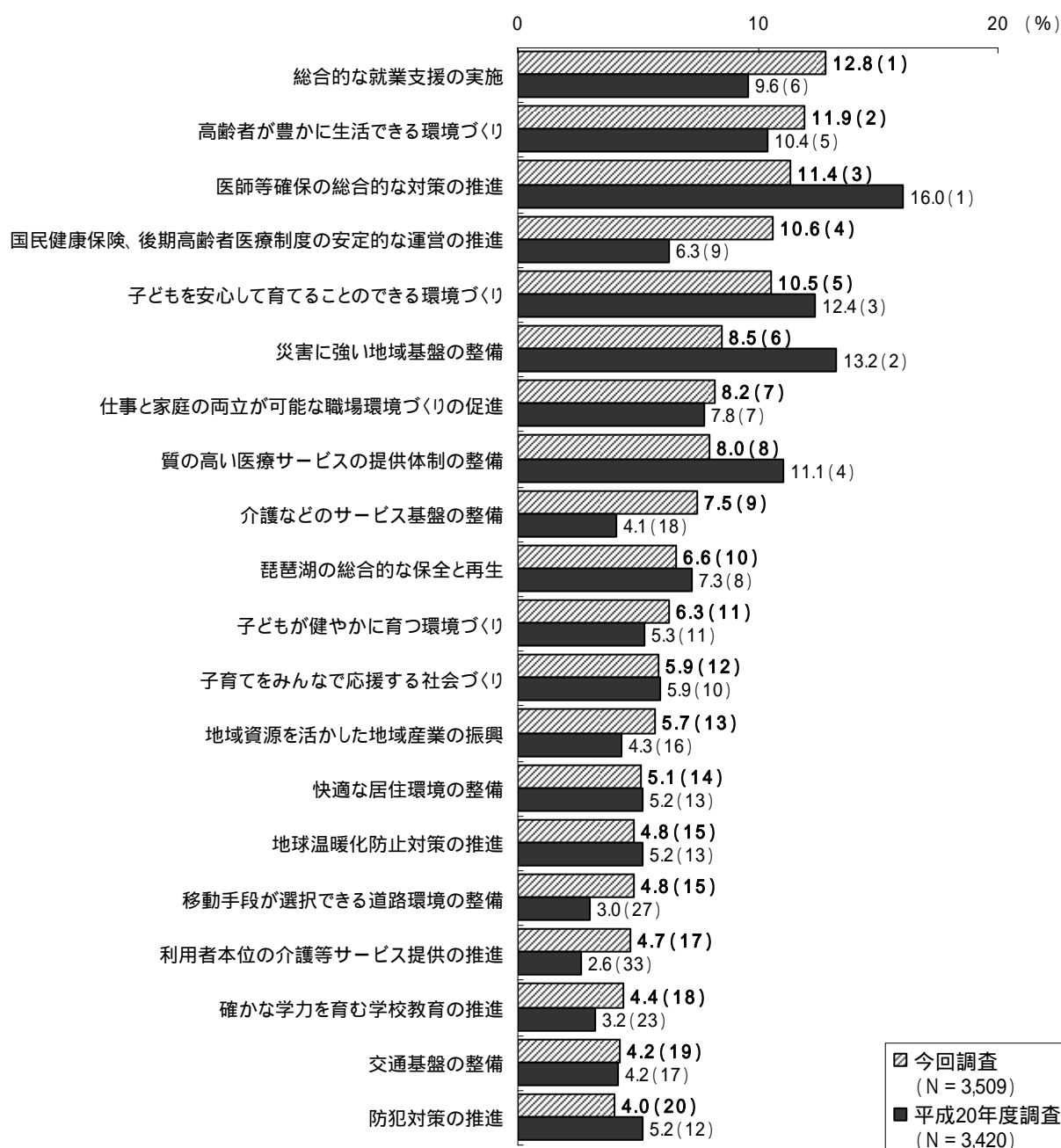
順位	項目	百分比
57	リハビリテーション提供体制の整備	1.1
62	個性豊かな文化の創造	1.0
62	下水道の効果的・効率的な整備	1.0
64	性別に関わりなく多様な選択ができる社会づくり	0.9
64	子どもから大人まで生涯にわたる食育の推進	0.9
64	特別支援教育の推進	0.9
64	地域のつながりの強化・充実	0.9
64	持続可能な滋賀社会づくりの推進	0.9
69	野生動植物の保護	0.8
69	高齢者の尊厳の保持	0.8
69	競争力の強化に向けた技術・経営人材の育成	0.8
69	学校における体験活動の促進	0.8
69	成長産業分野の育成	0.8
69	総合的な治水対策の推進	0.8
75	有害鳥獣対策の推進	0.7
75	都市施設の整備	0.7
75	生涯学習の推進	0.7
75	運動に親しみ、体力の向上を目指す教育の推進	0.7
75	生物の多様性に配慮した自然公園の適正な管理	0.7
75	防災対策の推進	0.7
75	土砂災害対策の推進	0.7
75	伝統産業の振興	0.7
75	環境への負荷が少ない移動手段への転換	0.7
75	ユニバーサルデザインのまちづくり	0.7
75	魅力ある農山村空間の創造	0.7
75	環境こだわり農業の一層の拡大	0.7
87	うつ・自殺対策の推進	0.6
88	文化資産の活用	0.5
88	琵琶湖への面源からの流入負荷削減対策	0.5
88	農村における人と人との絆の向上	0.5
88	健康スポーツの振興	0.5
88	感染症・難病対策の推進	0.5
88	みどりを守り育てる林業の振興	0.5
88	情報通信技術の活用	0.5
88	自主防災活動の促進	0.5
96	農山村基盤の整備	0.4
96	消費者の保護・育成	0.4
96	技術開発等による競争力の強化	0.4
96	環境学習の推進	0.4
96	農村の健全な水循環の確立	0.4
96	林業の担い手の確保・育成	0.4
102	子どもの読書活動の推進	0.3
102	協働によるまちづくり	0.3
102	文化資産の保存	0.3
105	都市浸水の防止	0.2
105	生涯を通じた歯の健康づくり	0.2
105	人と動物のよりよい関係づくりの推進	0.2
105	つくり育てる水産業の振興	0.2
105	スポーツの総合的な振興	0.2
105	環境コミュニケーションの推進	0.2
105	キャリア教育の推進	0.2
112	高等教育機関における専門性の高い人材育成	0.1
112	歴史的な文書および資料の活用	0.1
112	私学教育の振興	0.1
112	県民の社会貢献活動の促進	0.1
112	農業水利施設のストックマネジメントの推進	0.1
112	科学技術の振興	0.1

57	農業水産業の新たな展開	1.1
57	安心して通学できる道路環境整備	1.1

規定標本数(総数)	3,509
-----------	-------

上位 20 項目について平成 20 年度調査と比較すると、「総合的な就業支援の実施」が 3.2 ポイント増え、6 位から 1 位に上昇している。次いで、「高齢者が豊かに生活できる環境づくり」は 1.5 ポイント増え 5 位から 2 位に、「医師等確保の総合的な対策の推進」4.6 ポイント減り 1 位から 3 位に、「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」は 4.3 ポイント増え 9 位から 4 位となっている。

また、「介護などのサービス基盤の整備」は 3.4 ポイント増え、前年度の 18 位から 9 位になり、前年度 2 位の「災害に強い地域基盤の整備」は 4.8 ポイント減り 6 位となっている。



暮らし分野について

問8の暮らし分野の中で要望の最も高かった「医療、介護等提供体制の整備」の具体的項目では、「医師等確保の総合的な対策の推進」が11.4%で最も高く、次いで「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」(10.6%)となっている。また、問8で「医療、介護等提供体制の整備」に次いで要望の高かった「子どもが健やかに育つ環境づくり」の具体的項目では「子どもを安心して育てることのできる環境づくり」が10.5%で最も高く、次いで「子どもが健やかに育つ環境づくり」(6.3%)となっている。

また、暮らし分野全体についてみると、「総合的な就業支援の実施」が12.8%で最も高く、次いで「高齢者が豊かに生活できる環境づくり」(11.9%)の順となっている。

【地域別】

「医療、介護等の提供体制の整備」の具体的項目についてみると、大津・湖南地域では「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」が、その他の地域では「医師等確保の総合的な対策の推進」が最も高くなっている。

また、「子どもが健やかに育つ環境づくり」の具体的項目ではすべての地域で「子どもを安心して育てることのできる環境づくり」が最も高くなっている。

【性別】

「医療、介護等提供体制の整備」の具体的項目では、男性は「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」が最も高く、女性は「医師等確保の総合的な対策の推進」が最も高くなっている。

「子どもが健やかに育つ環境づくり」の具体的項目では、男女ともに「子どもを安心して育てることのできる環境づくり」が最も高く、女性のほうが男性より2.6ポイント高くなっている。

【性・年代別】

「医療、介護等提供体制の整備」の具体的項目では、男性の20～40歳代と女性の20～30歳代と50歳代では「医師等確保の総合的な対策の推進」が、男性の50歳代では「介護などのサービス基盤の整備」が、女性の40歳代では「質の高い医療サービスの提供体制の整備」が、男女とも60歳以上では「国民健康保険、後期高齢者医療制度の安定的な運営の推進」が最も高くなっている。

「子どもが健やかに育つ環境づくり」の具体的項目では、男女ともすべての年代で「子どもを安心して育てることのできる環境づくり」が最も高くなっている。

経済・産業分野について

問8の経済・産業分野の中で要望の最も高かった「地域を支える産業の育成」の具体的項目では、「地域資源を活かした地域産業の振興」5.7%が最も高く、次いで、「商業の振興」(3.4%)、「歴史や自然を活かした観光産業の展開」(2.2%)の順となっている。

【地域別】

大津地域では、「商業の振興」が最も高く、それ以外の地域では「地域資源を活かした地域産業の振興」が最も高くなっている。

【性別】

男女ともに「地域資源を活かした地域産業の振興」が最も高く、「商業の振興」では男性 4.9%、女性 1.9%で男性のほうが 3.0 ポイント上回っている。

【性・年代別】

男性の 30～40 歳代では「商業の振興」が、女性の 20 歳代と 70 歳以上では「歴史や自然を活かした観光産業の展開」が、女性の 30 歳代では、「地域資源を活かした地域産業の振興」「歴史や自然を活かした観光産業の展開」が同率で高くなっている。男女ともにその他の年代では「地域資源を活かした地域産業の振興」が最も高くなっている。

環境分野について

問 8 の環境分野の中で要望の最も高かった「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」の具体的項目では、「琵琶湖の総合的な保全と再生」が 6.6%で最も高く、次いで「環境重視と県民協働による川づくり・森林づくりの推進」(2.5%)、「健全な環境の確保」(1.8%)の順となっている。

環境分野全体でみると、「琵琶湖の総合的な保全と再生」に続き、「地球温暖化防止対策の推進」(4.8%)が高くなっている。

【地域別】

「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」の具体的項目についてみると、すべての地域において「琵琶湖の総合的な保全と再生」が最も高く、大津地域では 10.8%と最も高くなっている。次いで、湖南・湖北地域では「健全な環境の確保」が、湖東地域では「健全な環境の確保」と「環境重視と県民協働による川づくり・森林づくりの推進」が同率、その他の地域では「環境重視と県民協働による川づくり・森林づくりの推進」となっている。

【性別】

「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」の具体的項目では、男女ともに「琵琶湖の総合的な保全と再生」が最も高く、男性 7.8%、女性 5.6%で、男性のほうが 2.2 ポイント高くなっている。

【性・年代別】

「琵琶湖の総合保全をはじめとした自然環境の保全」の具体的項目では、男女ともにすべての年代で「琵琶湖の総合的な保全と再生」が最も高いが、男性の 20 歳代では「健全な環境の確保」が同率、70 歳以上では「環境重視と県民協働による川づくり・森林づくりの推進」が同率で高くなっている。

県土分野について

問8の県土分野の中で要望の最も高かった「交通基盤や都市施設の整備」の具体的項目では、「移動手段が選択できる道路環境の整備」が4.8%と最も高く、次いで「交通基盤の整備」(4.2%)、「国道・県道の整備」(3.3%)の順となっている。

県土分野全体では、「災害に強い地域基盤の整備」が8.5%で最も高くなっている。

【地域別】

「交通基盤や都市施設の整備」の具体的項目についてみると、湖南・湖西地域では「国道・県道の整備」が、湖東地域では、「交通基盤の整備」と「移動手段が選択できる道路環境の整備」が同率で、その他の地域では、「移動手段が選択できる道路環境の整備」が最も高くなっている。

【性別】

「交通基盤や都市施設の整備」の具体的項目では、男女ともに「移動手段が選択できる道路環境の整備」が最も高く、男性6.1%、女性3.7%で、女性のほうが2.4ポイント高くなっている。

【性・年代別】

「交通基盤や都市施設の整備」の具体的項目についてみると、男性の20歳代、女性の60歳代では「国道・県道の整備」が、男性の40歳代では「交通基盤の整備」と「移動手段が選択できる道路環境の整備」が、男性の70歳以上、女性の40歳代・70歳以上では「交通基盤の整備」が、その他の性・年代では「移動手段が選択できる道路環境の整備」が最も高くなっている。